

山際塾長のこだわり教育論 7

志望校を決め、 子どもに期待しましょう！

勉強は、**確かな目標**を持つことで、頑張ろうというエネルギーが湧き、やる気が生じてきます。

「行きたい学校・行くべき学校」を選び決めることは、勉強への心構えを前向きなものにするためにも非常に大切です。

志望校や進路について、親の意志を**一方的に押しつける**のはよくないのは当然としても、逆に、**本人にまかせっきり**、というのも、もっとよくありません。

子どもは、志望校や人生の目標を自分だけで決めるには、人生や社会についての知識や経験が少なすぎるのです。それを無理矢理に、自分ひとりで決めようとする、つい「友だちが行くから」「先輩が行ったから」「聞いたとのある学校名だから」という安易な決め方になってしまいます。

お父さまお母さまは、**人生の先輩として正しい知識や情報を伝えアドバイス**し、**子どもの将来**について共に考え、よく家族で話し合い、学校や塾の先生の意見を十分に参考にして、**最終的には本人の意思を尊重**して決定するのがベストです。

実際に志望校を選ぶとき、偏差値や、入試の難易度レベルを無視できませんし、もっとも気になるのは当然ですが、しかし志望校を偏差値や難易レベルだけで決めるのは、よくありません。

校風や教育理念などをよく確かめ、本人の希望や個性に合った志望校かどうかをよく見極めて、どのような**学校生活**を送るのか、そして卒業後、どういう**進路**をとるのかなどを、しっかりとイメージしておくことが大切です。

男子校・女子校がいいのか、共学がいいのか。大学の附属校にこだわるのか。国立公立か私立か。自由な校風の学校か、規律正しい学校か。クラブ活動はどんな部があるのか。その設備は。そしてどんな練習をどのようにしているのか。

志望校選びのための情報収集は、パンフレットを読んだりやホ - ムペ - ジをチェックするだけではなく、実際に学校に足を運び、自分の目で見て、感じて確認することも大切です。

各中学・高校では、受験生と保護者のための**学校説明会**を行っていますし、**文化祭**や**体育祭**などの行事を見学できる学校もあります。また**オ-ブンキャンパス(オ-ブンスク-ル)**は実際にその学校の先生や在校生から直接に教えてもらうことができ、最も身近に志望校を感じることができる機会です。

これらにはできるだけ積極的に参加して、その学校の先生や生徒たちや施設を見て回り、校風や雰囲気なども感じとるようにしましょう。

将来、「**どんな人間になってほしいか**」「**どのように人生を展望するか**」はご家庭によってさまざまでしょう。「子どもの長所を伸ばしてくれる学校にこそ行かせたい」という方も増えています。

志望校選びにおいて、**親の期待過剰は子どもをダメにしますが、その反対に期待されない子どもは伸びません。ほどよい適度な期待が子どもには絶対必要です。**

期待され、「**行きたい学校**」と**確かな目標**を持った受験生は目が輝き、いきいきとしています。少々のことでは、へこたれないし、努力もできます。

その逆にあまり期待されず、あやふやな目標しか持たない生徒は、どうしても勉強に力が入り切らず、物事に集中できにくくなります。

志望校を決めるのに、早すぎるということはありません。お子さまが成長していく過程で、状況や考えが変化していくにつれ、志望校の変更は当然ありえますが、それはそのときに修正していいのです。

大切なことは、今、**将来を見すえた目標を確かに持つこと**です。お子さまの成長の各時点で、これからの人生を前向きに展望し、そのために何をすべきかを真剣に考え、**努力の第一歩を踏み出すこと**が重要なのです。